

### 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

#### 1 めざす学校像

<p><b>清 冽 ゆかし、清水谷</b> 潔さと正義感をもった「清冽」な生き方を希求し、市民としての力量を備えた、おとなを育てる。あらゆる場面で「9つの力」(傾聴力、理解力、思考力、想像力、判断力、発信力、行動力、協働力、創造力)をバランスよく身に付けようと努力し続ける人物を育成する。</p> <p>1 学習活動の充実 「ゆかし」の精神の涵養を基礎に、不断の授業改善を行い、質・量ともに充実した学習内容の提供に努める。また、生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>2 部活動の振興 部活動を通じてルールやマナー、豊かな人間性と社会性、チャレンジ精神並びに継続する力を養う。</p> <p>3 自治活動の尊重 体育祭・文化祭などの学校行事を通じて、生徒の自主、自律、創造する力を高めるとともに、集団と個人とのよりよき関係づくりを学ばせる。</p>
--

#### 2 中期的目標

<p>1 学習指導の充実</p> <p>(1) 生徒に将来の夢と目標を明確にさせる指導を計画的・系統的に行い、その実現に向けて主体性のある学習態度育成への体制を整え、生徒の意欲を喚起するとともに、魅力ある授業の実践に努め、さらなる「学力」(平成 26 年 12 月中教審答申のいう「従来型の学力」ではなく)の向上を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりが興味・関心と学修意欲を十分に持てるよう教育課程、授業内容について不断の検証を行う。また、毎学期の終わりに、学修状況等を振り返る時間を設定することにより、家庭学習の重要性を理解させ、予習・復習の習慣を定着させるなど、生徒が能動的に学修に取り組む態度を養う。</p> <p>(3) 清水谷セミナーなど学習指導を充実させる教育活動を幅広く実施する。また、生徒の多様な進路希望に対応できるよう、進路に関する資料・情報等を収集・整理し、適切に提供するとともに進路についての助言・指導を行うことで、生徒の「内破する力」の育成に努める。 生徒の学校評価に関する調査において、進路実現に関する項目の肯定率が 86.8%(平成 30 年度)であった。この数値が維持・向上する取組みを継続する。国公立大学の現役合格者を平成 30 年度実績在籍者比 12%から徐々に伸ばし、3 年後には 15%をめざす。</p> <p>2 生徒指導の充実</p> <p>(1) すべての教育活動を通じて、生徒の自主性を育て、より望ましい人間関係を構築できるよう努める。</p> <p>(2) 生徒自治会、部活動をはじめとする課外活動の充実と振興を図る。</p> <p>(3) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりにきめ細かい指導・支援ができるよう配慮する。</p> <p>(4) 「時を守り、場を清め、礼を正す」ことへの生徒の意識、意欲を涵養する。</p> <p>(5) 学校いじめ防止基本方針を踏まえ、生徒が安全で安心な学校生活を過ごせるよう努める。 生徒の学校評価では、自治活動(平成 30 年度 90.6%)や部活動(平成 30 年度 97.2%)に対する肯定率は高い。また、部活動加入率も 91%(平成 30 年度)と高い。これらの数値を維持・向上させる取組みを継続し、自制心・やり抜く力など「非認知能力」を高めることで生徒の「内破する力」の育成に努める。</p> <p>3 学校運営の充実</p> <p>(1) 情報の共有化と P R 活動の充実 ア 校内における情報の共有化を図るとともに、積極的かつ速やかな情報発信に努める。 イ 中学生、保護者等を対象とする学校説明会等を効果的・計画的に実施し、本校教育活動に対する理解を深めるとともに本校の貢献すべきことを明示する。</p> <p>(2) 危機管理体制の確立 ア 自然災害をはじめ、火災、事故や感染症等が生起するおそれがあることを常に念頭に置き、防災・危機管理体制を確立する。また防犯についても十分な体制をとる。</p> <p>(3) 施設、設備の計画的管理 ア HR 教室、準備室、特別教室等、校地校舎全般にわたり、備品の整理保管及び施設の保全に努める。 イ 機会あるごとに校舎、校具等への愛護心を養うように指導し、校内美化運動に取り組むとともに、環境問題についても関心を高める。</p> <p>(4) 人権教育の推進 ア あらゆる教育活動の場で人権教育を展開する。また、障がいのある人々や在日外国人問題への理解を深める。 イ セクシュアル・ハラスメント、体罰、児童虐待についての啓発を行うとともに、教職員の人権意識とスキルの向上を図る。</p> <p>(5) 地域連携の推進 ア 学校、PTA、同窓会がひとつになって、本校における教育活動が充実する取組みを行う。 イ 部活動等においては、地域の文化の発展につながるような活動にも参画することを推進する。</p> <p>4 生徒、教職員の健康管理</p> <p>(1) 校務処理システムなどの ICT を積極的に活用し、学習状況や健康管理に関する情報と課題を共有し、生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>(2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。</p> <p>生徒は「清水谷に来て良かった」93.6%、保護者は「行かせてよかった」97.0%(平成 30 年度)といずれも満足度は高い。こうした満足度をさらに向上させるために生徒の希望する進路の実現をサポートする学校づくりを進める。</p>
---

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 12 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p>〔生徒〕 22 項目中、肯定的意見 80%以上が 19 項目と全体的に肯定的な意見が多い。否定的意見が 25%以上の項目は「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」(否定 26.4%)、「学習習慣を定着させる指導をしている」(否定 25.3%)の 2 項目で、授業・学習支援のあり方が課題である。</p> <p>〔保護者〕 17 項目中、肯定的意見 80%以上が 10 項目、70%台が 7 項目。否定的意見が多い項目は、「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」(否定 20.9%)、「将来の進路実現に向けた適切な指導を行っている」(否定 16.4%)。保護者連携と進路指導のあり方について再検討が必要である。</p> <p>〔教員〕 否定的意見 40%以上が「大学や中学校、地域の人たちとの交流・連携や、国際交流などの活動を積極的に進めている」(否定 46.4%)、「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」(否定 43.9%)、「教育活動における問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」(否定 41.5%)の 3 項目。交流活動の促進と教員間のコミュニケーション促進が課題である。</p>	<p><b>第 1 回 令和元年 6 月 19 日(水) 14:30~16:15</b> 〔授業見学後の意見〕・プロジェクターとプリント教材の併用により、板書時間を短縮でき、授業に集中できる環境が整っている。 ・理解しやすいように工夫された授業である。講義形式だけでなく、発表する機会をつくっている。 〔学校経営計画及び学校評価、進路状況等に関する意見等〕 ・既に肯定率の高いものは、もう項目として挙げる必要はないのではないか。 ・ホームページは中学生が清水谷高校を詳しく知る入口となるので、内容の充実に努めてほしい。 ・2 年生(4 月)で成績が落ち込む理由は何か。( 高校 1 年生の学習が定着していないのが現状である。)</p> <p><b>第 2 回 令和元年 11 月 19 日(火) 15:00~16:40</b> ・ホームページ更新回数が多いことは良い。行事ごとに更新されると見るのが楽しくなる。 ・英語民間試験は延期になったが必要なスキルであることに変わりはない。 ・今後の清水谷高校について・小委員会のメンバーを公募して協議したのはよかった。 ・学校内だけでなく、学校外での実践も考えられる立地である。 ・外国語を使う機会を増やすこととともに、国語の教育も大切にすべきである。</p> <p><b>第 3 回 令和 2 年 2 月 14 日(金) 15:00~16:30</b> 〔学校教育自己診断集計結果について〕取組み内容の発信をお願いしたい。 〔平成 31 年度学校経営計画及び学校評価について〕働き方改革は浸透している。肯定率が</p>

	<p>90%を超えている項目は現状維持をすればいい。          [令和2年度学校経営計画及び学校評価について] ・めざす学校像が分かりやすくなった。「R - P D C A」サイクルの「R (Research)」が大切である。 ・生徒が自己分析できると、自分の進路を見据えて将来を考えることができるようになる。 ・自らの学校に参画していることが生徒の自己肯定感につながっている。          [今後の清水谷高校について] ・地域や社会で学ぶことはもっとできる。 ・入学したいと思えるとくしょくのある学校にしてほしい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の充実	<p>(1) 生徒の「企(せのび)」を支援するための取組み            ア 主体性のある学習態度育成への体制づくり            イ 振り返りHRの発展            ウ 講習や補習、自主学習等の充実            エ 進路指導の充実</p>	<p>(1)            ア・主体性のある学習態度の育成を展開するための指導方法について将来構想委員会を中心に取組みを進める。            ・年2回実施する授業アンケートの結果を教員の資質向上に繋げる。            イ・各学期末の「志学」の時間(名称:振り返りHR)に活用し、生徒の目標設定や学習意欲の向上に努める。            ウ・長期休業中や放課後等において、生徒の進路希望に応じた清水谷セミナー等の講習を行い、一方で家庭等での自主学習時間を充実させる。            エ・生徒の希望する進路実現を支援するため、適切な情報提供・指導に努める。また、影響の大きい保護者の進路意識の状況を調査し、情報提供に努める。</p>	<p>(1)            ア・「教員の間で、授業方法や評価のあり方について検討する機会が多い」の肯定率を3年前の75.5%にまで戻す(前年度60.5%)また先進校訪問や研究会活動への参加等自己研修の状況。            イ・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」につき78%以上(前年度76.2%)の肯定を得る。            ウ・生徒の「学習習慣を定着させる指導をしている」(前年度74.1%)を向上させる。            ・2年生4月の平日自宅での学習時間を1時間に伸ばす(昨年度40分)            エ・センター試験出願者数79%以上をめざす。(前年度77.0%)</p>	<p>(1)            ア・「教員の間で、授業方法や評価のあり方について検討する機会が多い」肯定68%( )            イ・「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」肯定73.1%( )            ウ・「学習習慣を定着させる指導をしている」肯定74.4%( )            ・2年生4月の自宅学習時間54分( )            エ・センター試験出願者数75%( )</p>
2 生徒指導の充実	<p>(1) 自主・自律の態度を育む取組み            (2) 配慮を要する生徒を支援する取組み</p>	<p>(1)            ・「学校の部活動に係る活動方針」を着実に実施する。            ・これまでの清水谷のよき伝統である自治会活動・部活動など生徒の自治活動を支援することにより、生徒の自主性や自立心を育み、「9つの力」をバランスよく身にさせる。            ・学校いじめ防止基本方針等に基づき、生徒が安心して「企(せのび)」や「内破」ができる安全な学校生活を送れるよう環境整備と指導に努める。            (2)            ・配慮を要する生徒に対して教員間の意思疎通を踏まえスクールカウンセラーとも連携し、ケース会議を開催するなど組織的な指導・支援を継続・充実させる。            ・学校からの情報発信を積極的に行い、生徒や保護者との真摯な意思疎通を広げ深める。</p>	<p>(1)            ・各部活動の予定、報告の提出状況。            ・生徒の「自治会活動が活発である」の肯定率(前年度90.6%)を向上させる。            ・生徒の「人権教育」に対する肯定率は、89%以上(前年度87.6%)。人権の意味を確認させながら数値の向上に努める。            (2)            ・本校の生徒の相談体制に対する肯定率は87%以上。(前年度86.2%)            ・保護者の「家庭への連絡や意思疎通」に対する肯定率は82%(前年度79.8%)に向上させる。</p>	<p>(1)            ・すべて提出。( )            ・生徒の「自治会活動が活発である」肯定89.2%( )            ・生徒の「人権教育」に対する肯定87.9%( )            (2)            ・本校の生徒の相談体制に対する肯定86.8%( )            ・保護者の「家庭への連絡や意思疎通」に対する肯定76.1%( )</p>
3 学校運営の充実	<p>(1) 真のPR(Public Relations)の充実            (2) OJTの活性化            (3) 学校、PTA、同窓会が一体となった取組み</p>	<p>(1)            ・中学生やその保護者、在校生の保護者、卒業生をはじめ、多くの関係者に学校の教育方針を理解し、応援いただけるよう効率的・効果的な情報発信を一層充実する。            ・学校説明会等を中学生にとっても「企(せのび)」の場となるよう工夫する。            (2)            ・この数年で年齢構成が大きく変わる本校の今後について、ベテラン教員と経験の浅い教員の意思疎通を図りながら、学校の将来像を求めつつ、互いの力量を高めていく。            (3)            ・生徒が自立した社会人として成長できるよう、同窓会やPTAと連携して、卒業生等を講師とした講演会などを企画・実施する。</p>	<p>(1)            ・学校ホームページを60回(トップページの更新履歴)更新する。(前年度57回)            ・週に1回保護者向け携帯連絡網による清水谷通信を配信する。            (2)            ・OJTとして、フレッシュミーティング、コアミーティング、教科会等を開催し、意見交換を図る。            (3)            ・各学期に1回以上、講演会等を実施する。</p>	<p>(1)            ・ホームページ更新回数200回( )            ・清水谷通信の配信53回( )            (2)            ・フレッシュミーティング、コアミーティング、教科会を実施し、さらに全教員による「職員ミーティング」を3回開催。( )            (3)            ・PTAとの共催を含め講演会を3回開催。( )</p>

## 府立清水谷高等学校

4 生徒及び教員の健康 管理	(1) ICTによる校務の効率化 (2) 労働安全衛生管理体制の充実	ア・学習状況、健康管理に関する情報を教員間で共有する。 イ・「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」を実施し、業務の効率を図る。 ウ・安全衛生委員会の定期開催 毎月の職場巡視の実施	ア・教員のICT活用状況出欠入力を行う。 イ・勤務時間以外の業務時間の減少 ・時間外月80時間以上の職員をなくす。 ウ・月1回以上安全衛生委員会を開催する。	ア・ICT活用状況出欠入力を完全実施した。( ) イ・80時間以上の職員1人( ) ウ・月1回安全衛生委員会を実施( )
----------------------	---------------------------------------	--	---	--